



▲導入された在宅血液透析廃水処理ユニットの現場調査の様子

患者にとって利点の多い在宅透析だが、一方で導入には環境負荷が懸念される。フジクリンでは、長年にわたり透析クリニックの廃水処理に携わってきた実績を生かし、

在宅透析向けの処理ユニットが11月販売スタート

日本初の「在宅血液透析廃水処理ユニット」を開発!



FJS型

在宅透析向けの処理ユニットを開発。「透析で苦勞されている方々のお役に立つため、可能な限りランニングコストを抑えた製品にしよう」と思い、開発にあたりました。今後も改善を繰り返して、環境と家計に優しい製品へとブラッシュアップさせていきたいです」と開発担当者は話す。

前頁で紹介した木暮氏も「環境を守りつつ、安全な在宅透析をするためには、廃水処理装置は必要不可欠です。フジクリンの提供する処理ユニットは、薬剤を使用せず、安全にしかもローコストで維持管理できる製品だと思えます」と期待を寄せる。

フジクリン人工透析廃水処理ユニットの一覧と実績

導入先	機種	透析除害 BODとpHを同時処理して下水道へ放流。	透析河川 BODとpHを同時処理して河川へ放流。	透析中和 pHのみを処理して下水道へ放流。	導入実績 (8年間)	
医療施設	FJR(除害ユニット) 担体流動方式の採用で、微生物を担体に付着・増殖させることにより生物量を保持。 	○			144件	
	FJR-X(BOD処置ユニット) 処理水と汚泥の固液分離は担体ろ過で行うことで、維持管理がさらに容易に。 		○		45件	
	FJM-X(高度処理ユニット) 中和緩衝調整槽と膜分離活性汚泥方式の採用で、高度処理が必要な地域に適した処理水質が得られる。 			○		
	FJP II -M(pH調整ユニット 地下埋設型) コンパクト設計で、省スペースを実現。地下に埋設するため、流入配管が埋設配管の場合でもポンプ槽なしで処理が可能。 				○	169件
	FJP II -S(pH調整ユニット 地上設置型) 処理槽、薬液タンク、制御盤は、配置プランに応じて分割設置が可能。 					
個人宅	[11月発売開始] FJS(在宅血液透析廃水処理ユニット) 個人宅での使用を考慮し、維持管理のしやすさに定評がある接触ろ床方式を採用。維持管理頻度を抑えつつ安定した処理水質を確保する。 		○		-	

患者の声

病院からの提案で在宅透析を導入した際、県と市から透析廃水はそのまま流せないとの指導があり、フジクリンに個別設計を依頼し、処理ユニットを設置しました。在宅透析には家族のサポートも必要ですが、以前より時間にゆとりが生まれましたので、とても喜んでおります。今後、処理ユニットがさらに小型化されると、より多くの透析患者が利用できるのではないのでしょうか。

群馬県館林市 S.Sさん (58歳)



第20回 在宅血液透析研究会

道は開ける～腎代替療法の多様性を求めて～

フジクリンもブース展示で、在宅血液透析廃水処理ユニット「FJS型」をご紹介します。

会期 2017年 11/11日・12日

会場 ワークピア横浜 (神奈川県横浜市中区山下町24-1)

